

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の実施事業をご紹介する不定期発行冊子です

新たな太陽光発電事業 ただいま進行中！ 飯田市地域公共再生可能エネルギー活用事業に認定されました

新たな太陽光発電事業として、飯田市川路の養護老人ホーム「ハートヒル川路」でパネル設置の準備が進められています。11月下旬には、施設へパネルやパワーコンディショナが到着して、荷受けが行われました。

ハートヒル川路は、天竜川を見下ろす河岸段丘の先端部分にあって、とても日当たりのよい場所です。まわりには小学校や保育園のほか、飯田市と中部電力が2011年に設置した「メガソーラーいいだ」もあります。パネル288枚、設備容量89.28kWの設置計画で、発電開始は2020年1月ごろを予定しています。



パネルを設置する「ハートヒル川路」

地域公共再生可能エネルギー活用認定事業に認定

今回の事業は、飯田市「再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」の認定を目指してきました。

この条例は2013年に制定されて、太陽光や小水力など地域資源を活かした再生可能エネルギー事業に、地域住民組織（まちづくり委員会等）が主体となって取り組むことを、助言・後押ししています。

11月28日には、ハートヒル川路の事業計画審査会が行われました。審査会には、事業主体である川路まちづくり委員会の副会長、川路自治振興センター長、事業者としておひさま進歩エネルギー社員が出席して、事業内容や資金計画、事業を通じた20年間の地域貢献寄付金の支払いなどの地域貢献について説明しました。

委員からは「20年後はどのような扱いになるのか」「金融機関の融資への理解度は」など、様々な角度から質問があり、その後、審査が行われました。審査の結果、「事業継続性と公共性という認定に必要な要件が確認できた」として、無事に認定を受けることができました。おひさま進歩エネルギーの事業では、8件目の認定案件となります。

審査会委員長を務める京都大学の諸富徹教授からは、「まちづくり委員会が、これまで長きにわたってハートヒル川路と交流を続け、太陽光発電も自ら起案したことは大変すばらしく、審査会として後押ししたい」との評価をいただきました。



パネルや瓦金具が施設へ到着



年に1度の地域環境権条例事業の報告会

2019年度 事業報告会・情報交換会

同じく11月28日、同条例の認定を受けた飯田市内12団体の関係者による年に1度の事業報告会も行われました。おひさま進歩エネルギーでは、2013年以降に認定を受けた7事業について、1年間の発電状況等を報告しました。

審査委員との質疑もあり、飯田市山本地区では久米会館とさくら分園、山本小学校、飯田山本おひさま広場、地域活動の拠点となる杵原学校にパネルが設置されて、地域内で年齢に応じた環境教育や地域活動につなげていることが評価を受けました。これからも、地域の皆さんと一緒に、自然エネルギー事業を進めていきます。

■ 飯田まちづくり電力 7月から供給スタート

おひさま発電所が生み出した自然エネルギーを提供する電力小売会社「飯田まちづくり電力株式会社」は2019年7月、飯田市の小中学校や公民館など公共施設を皮切りに、電力供給をスタートしました。これまで、おひさまファンドの出資金を活用して設置してきた発電所105カ所から電力を調達、電力調達のうち30%を飯田下伊那地域で発電した電気でもかなうことを目指しています。

おひさま進歩エネルギーの創業から15年。いよいよエネルギーの地産から、地消という新たな段階に進むことができました。自然エネルギーが生み出す電気を、当たり前に使っていただけるように、今後も太陽光や小水力発電等の事業を進めていきます。



地域のおひさま発電所105カ所から電力を調達しています。(写真:飯田市役所、駄科コミュニティ防災センター、飯田市山本小学校)

■ 2019年問題説明会を開催しました

2019年11月以降、太陽光の固定価格買取制度での10年間の買取が満了する、いわゆる「2019年問題」。

買取期間満了を前にした9月27日、「おひさま0円システム」で自宅に太陽光発電を設置したお客様を対象とした説明会を、旧飯田測候所で2回開催しました。

説明会では、社員から買取制度満了の仕組みを説明。その後、お客様の関心に合わせて「蓄電池」「新電力での買取」「メンテナンス」のグループに分かれ、社員が相談や疑問点を直接お聞きしました。

説明会には18名が参加いただき、「大手電力以外で高く買取ってくれるところへ売りたい」「自宅を移転するがパネルはどうすれば…」など様々な質問を頂きました。お客様からお聞きした疑問や率直な声を、これからのサービスに生かしていきます。



■ 泰阜村で太陽光・蓄電池導入、LED化事業が工事中



昨年の北海道胆振東部地震による全域ブラックアウト、今年9月の台風15号での広範囲停電など、電力供給の停止が被災者の生活に深刻な影響を及ぼしたことは記憶に新しいところです。

環境省は昨年度から、地域の避難所となる公共・民間施設へ、低炭素化と災害時の電力確保を同時に進めるため、パネルや蓄電池の設置、LED化など省エネ化を進める新たな補助金を設けています。

飯田市に隣接する泰阜村では、現在この補助金を受けて、村役場と福祉支援センター、中学校、体育館にパネルと蓄電池、LED照明の導入事業を進めています。

おひさま進歩エネルギーは、蓄電池メーカーやパネル販売業者、地元の電気工事店と共同でこの事業を受託。蓄電池は、以前から新たなサービス展開を探ってきましたが、今回が初めての導入事業です。現場ですらに知見を蓄積して、これからの事業に生かしていきます。

進め！さんぼちゃん 環境学習レポート



地域での環境学習は、創業時から大切に続けてきた事業です。パネルを設置した保育園で、園児に太陽光発電や省エネの大切さを伝えたパネルシアターから始まり、公民館での環境家計簿講座、小学生向けの「地球防衛隊プログラム」、地域イベントへのブース出展など、少しずつ範囲を広げながら地道な活動を続けています。

このページでは今年、飯田市立旭ヶ丘中学校で取り組んだ環境学習の様子を紹介します。

飯田市立旭ヶ丘中学校「かやの実チャレンジ」

2015年、生徒会副会長に立候補した生徒の提案をきっかけにパネルを設置した旭ヶ丘中学校。毎年10月、2年生を対象にした地域学習「かやの実チャレンジ」では、おひさま進歩エネルギーが環境学習プログラムの一部を担当しています。

今年も10月17日、学区内にある太陽光発電所や、市内の水力発電所を見学、旧飯田測候所で地球温暖化防止を学ぶ講座と、ワークショップを体験するツアーを行いました。



2015年、旭ヶ丘中学校屋根に設置された太陽光パネル。「みんなとおひさまファンド」出資金が活用されています。



①太陽光自立運転の体験
中学校のパワーコンディショナで、自立運転への切り替えを、生徒自身に体験してもらいます。非常用コンセントを使って、サツマイモご飯を炊いて全員で試食しました。



②飯田山本おひさま広場見学
学区内の太陽光発電所を見学。山本まちづくり委員会の元会長さんから、発電所建設の経過をお聞きしました。



③中部電力松川第四発電所見学
地域の豊富な水資源を生かして電気が供給されていることを学びました。

このような環境学習を通じて、自分たちの学校や地域でどのような発電事業が行われているのか、CO2削減のため一人ひとり何ができるかを伝えていきます。



⑤コンセントの向こうがわ
私達が使う電気はどこから来るの？温暖化とどう繋がるの？地図を使いながら一緒に考えます。



④地球温暖化防止講座
気候変動の現状と将来予測を、社員が映像を交えて講義。生徒自身が取り組めることを考え、発表しました。



8月6-8日、小学生向けの夏休みエコイベント「宇宙船地球号にのって」を旧飯田測候所で開催。デジタル地球儀スフィアの映像で宇宙から見た地球の姿や大陸移動、海流や偏西風の動き、温暖化のようすを見て、地球の未来や、自分達にできることを考えました。



11月2-3日、「第11回市民・地域共同発電所全国フォーラム」が岡山市で開催されました。分科会「再エネ事業のためのお金の作り方・回し方」では、弊社取締役の谷口が、市民の意志あるお金を生かしたおひさまファンドによる再エネ事業について報告しました。



飯田自然エネルギー大学は、2期生の第2年次授業が月1回ペースで続いています。8月からは再エネ事業化に向けた事例研究がスタート。受講生の事業構想をもとに、計画の事業性や資金調達を研究して、自身の事業計画作成に生かしていきます。

おひさま進歩スタッフ紹介



石崎



柏木

おひさま進歩エネルギー株式会社では、現在13名が働いています。このうち2名は、今年新しく入社しました。

8月に入社した石崎昌利は、電気工事会社で26年の勤務経験があり、設備管理部門で発電施設のメンテナンスを担当。地元サッカークラブのコーチとしても活躍中です。

11月に入社した柏木愛は、神奈川県からIターン。東京の新電力会社で働いた経験があり、おひさまでは、太陽光や小水力など電源開発を担当します。頼もしい新メンバーと一緒に、力を合わせて事業を進めていきます。



おひさまエッセイ

今年7月から飯田まちづくり電力株式会社（いいでん）が電力の供給を開始しました。いいでんは株式会社飯田ケーブルテレビ、株式会社飯田まちづくりカンパニーとおひさま進歩エネルギー株式会社が出資し、2018年3月に設立した電力小売り会社です。地域づくりを目指す3社が一体となって電気小売り事業を進めていきます。

飯田下伊那地域で発電した電気を、地域の中で使っていこうとするものです。いいでんからの電気供給を受ける第1号は、もちろんおひさま進歩エネルギーです。飯田市と協定を結び飯田市立小中学校、公民館等にも供給しています。個人への供給も順次進めていきますが、供給先は飯田下伊那地域内に限定しています。飯田下伊那地域の皆さん、ぜひいいでんからの電気供給に変更を検討ください。

今年のラグビーワールドカップでは、多くの皆さんが日本チームの活躍に胸躍らせたことと思います。当社でも社員や飯田自然エネルギー大学の受講生で、日本戦2試合を応援しました。プレーする日本チームもまとまっていたようですが、応援する私たちもしっかりまとまりました。今年の花園（全国高校ラグビー大会）へは、地元飯田高校が出場します。まだまだ冷めやらぬラグビー熱で、皆さんも一緒に応援をお願いします。



おひさま発電所の電気を地域へ

おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役 菅沼利和

 おひさま進歩エネルギー株式会社

〒395-0027 長野県飯田市馬場町3丁目411番地

TEL 0265-56-3711、FAX 0265-56-3712、メール info@ohisama-energy.co.jp

HP <http://ohisama-energy.co.jp/>